

3才児のアンケートならびに精神発達調査について

秋田県衛生科学研究所母子衛生科

伊 藤 玲 子

金 野 直 子

保健所（花輪，大館，鷹巣，能代，五城目

男鹿，秋田，本荘，矢島，角館，

大曲，横手，湯沢）

多くの対象者に対し，専門家の協力を得ることが困難な保健所において，手軽にしかも短時間に実施できる方法として，東京都の専門家の間に3才児健診研究会が作られ，数年にわたつて研究が続けられてきている。この方法の第一次スクリーニングのアンケート方式を，本県においても，41・42・43年度の3才児健診にとり入れているので，その結果について報告する。

今回は，全保健所，56市町村，10035名のアンケート結果をのべ，その中の6110名については，さきに所報11輯においてのべた本県の専門家グループで作られた精神発達調査（秋田方式）を合わせて行なつたので，アンケートにおける母

親の観察と精神発達調査との関係も合わせてのべる

1. 調査方法及び対象人員

調査の方法は，41・42・43年度3才児健診の際に，個人通知を行なつてゐる所では，あらかじめ別表用紙を通知とともに配布しておき，健診当日に会場に持参させた。又，個人通知を行なつてゐない町村では健診会場で同伴者が記入，又は同伴者に問診をして回答を得たものである。

調査人員は，表1の如く，13保健所，56市町村にわたり，男5186名，女4849名計10035名である。

3才児健康診査アンケート

調査市町村及び人員（昭和41・42・43年度）

昭41年度 1819名
42年度 5687名
43年度 2529名
（計 10035名）

保健所	市 町 村 名	男	女	計
花 輪	十和田町，八幡平村	48	29	77
大 館	大館市，比内町，田代町，花矢町	477	445	922
鷹 巣	鷹巣町，阿仁町，合川町，森吉町，上小阿仁村	406	378	784
能 代	琴丘町，八竜町	593	536	1129
五城目	井川村，八郎潟町，五城目町，昭和町 飯田川町，大瀧村	441	388	829
男 鹿	男鹿市，琴浜村	106	101	207
秋 田	秋田市，河辺町，雄和村，天王町	361	309	670
本 荘	本荘市，東由利村，西目村，象潟町，岩城町，金浦町	85	64	149

矢 島	由利町, 矢島町, 島海村	456	416	872
角 館	角館町, 西木村	423	460	883
大 曲	大曲市, 西仙北町, 千畑村, 六郷町, 神岡町, 太田村, 仙北村	436	399	835
横 手	横手市, 十文字町, 雄物川町, 大森町, 平鹿町, 大雄村, 山内村	792	799	1591
湯 沢	増田町, 稲川町, 皆瀬村, 東成瀬村, 雄勝町, 羽後町	561	525	1087
計	5 6 市 町 村	5186	4849	10035

2 成 績

1) アンケート結果について

母親が全然問題ないとみている者, つまり
アンケートの回答が全て問題なしの者は, 表

2の如く, 男4635名中, 1264名(27.9%)
女4245名中, 1443名(34.0%)である

表2 3才児健康診査アンケート

母親“問題なし”の比率

調 査 人 員

昭和41年度 1819名
42年度 4530名
43年度 2531名
(計 8880名)

保健所	男			女			計		
	N	問題なし	%	N	問題なし	%	N	問題なし	%
花 輪	48	10	20.8	29	9	31.0	77	19	24.7
大 館	299	71	23.7	245	67	27.3	544	138	25.4
鷹 巣	406	89	21.9	376	105	27.9	782	194	24.8
能 代	593	196	33.1	534	197	36.9	1127	393	34.9
五城目	428	101	23.6	379	123	32.5	807	224	27.8
男 鹿	106	36	34.0	86	38	44.2	192	74	38.5
秋 田	352	62	17.6	309	76	24.6	661	138	20.9
本 荘	85	30	35.3	64	33	51.6	149	63	42.3
矢 島	388	128	33.0	345	119	34.5	733	247	33.7
角 館	164	60	36.6	155	61	39.4	319	121	37.9
大 曲	433	130	30.0	399	127	31.8	832	257	30.9
横 手	772	228	29.5	783	271	34.6	1555	499	32.1
湯 沢	561	153	27.3	526	217	41.3	1087	370	34.0
計	4635	1294	27.9	4245	1443	34.0	8880	2737	30.8

これを保健所別にみると, 本荘42.3%, 秋田20.9%で差がある。問題ありの母親が都市部をかかえる保健所に多い傾向であるが, これを東京都3才児健診研究会の結果と比較してみると, 表3の如くで, 秋田県69.2%, 八王子71.1%, 目黒68.6%, 中野北66.7%, 足立63.8%と大差がみられない。

年度別では, 表4の如く, やや差があるが, 男

児より女兒に問題なしの者が若干多い。

項目別にみると, 表5, 表6の如くである。その主なものを列記すると, アンケート1, ことは遅れているという心配がありますかに対し, 心配あるが, 男5186名中, 629名(12.1%) 女4849名中, 356名(7.3%), アンケート2, 発音がおかしいという心配がありますかに対し, 心配あるが, 同様に男902名(17.4%)

表3 アンケート使用成績（東京都3才児研究会成績との比較）

検診地区	検診数	“あり”の例数	検診数の中で“あり”の例の占める率
秋田県	8880	6143	692%
東京中野区	306	244	667%
東京目黒	140	96	686%
東京足立	58	37	638%
八王子	66	47	711%
大島	62	41	661%
八丈島	31	45	556%

小児保健研究 VOL.26, No.3, 1968

表4 年度別・母親“問題なし”の比較

	昭和41年			昭和42年			昭和43年		
	総数	問題なし	%	総数	問題なし	%	総数	問題なし	%
男	978	330	337	2321	632	272	1336	332	24.9
女	841	324	385	2209	728	330	1195	391	32.7
計	1819	654	36.0	4530	1360	30.0	2531	723	28.6

表5 3才児健康診査アンケート

調査人員

昭41 978名
42 2873名
43 1335名
(計 5186名)

母親“問題あり”の比率（男児）

アンケート番号	前半		後半		計	
	問題あり	%	問題あり	%	問題あり	%
1	335	13.4	294	11.0	629	12.1
2	430	17.2	472	17.6	902	17.4
3	128	5.1	120	4.5	248	4.8
4	67	2.7	58	2.2	125	2.4
5	94	3.8	99	3.7	193	3.7
6	20	0.8	30	1.1	50	1.0
7	106	4.2	129	4.8	235	4.5
8	552	22.0	612	22.8	1164	22.4
9	207	8.3	180	6.7	387	7.5
10	117	4.7	117	4.4	234	4.5
11	532	23.2	633	23.6	1215	23.4
12	305	12.2	266	9.9	571	11.0
13	301	12.0	304	11.3	605	11.7
14	863	34.8	965	36.1	1828	35.5
15	227	9.1	205	7.6	432	8.3
16	498	19.9	461	17.2	959	18.5
17	241	9.6	311	11.6	552	10.6
調査数	2504		2682		5186	

表6 3才児健康診査アンケート

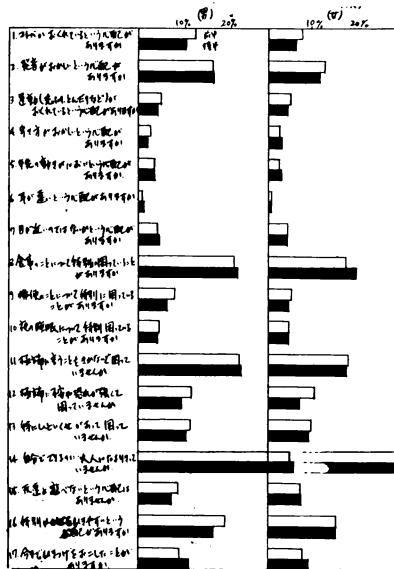
母親「問題あり」の比率（女兒）

調査人員

昭41 841名
42 2814名
43 1194名
(計 4849名)

	前 半		後 半		計	
	問 題 あ り	%	問 題 あ り	%	問 題 あ り	%
1	191	8.0	165	6.7	356	7.3
2	312	13.0	293	12.0	605	12.5
3	125	5.2	117	4.8	242	5.0
4	67	2.8	80	3.3	147	3.0
5	62	2.6	73	3.0	135	2.8
6	16	0.7	17	0.7	33	0.7
7	107	4.5	106	4.3	213	4.4
8	428	17.8	493	20.1	921	19.0
9	127	5.3	117	4.8	244	5.0
10	116	4.8	118	4.8	234	4.8
11	438	18.3	440	18.0	878	18.1
12	254	10.6	178	7.3	432	8.9
13	237	9.9	233	9.5	470	9.7
14	714	30.1	755	30.8	1469	30.4
15	175	7.3	184	7.5	359	7.4
16	372	15.5	377	15.4	749	15.4
17	193	8.0	224	9.1	417	8.6
調 査 数	2 3 9 8		2 4 5 1		4 8 4 9	

図1 男女別・項目別 母親「問題あり」の比率（昭41・42・43年度）



女605名(12.5%)、アンケート8、食事のことについて特別困っていることがありますかに対し、困っているが、男1164名(22.4%)、女921名(19.0%)、アンケート11、極端に言うことをきかないで困っていませんかに対し、困っているが、男1215名(23.4%)、女78

名(18.1%)、アンケート14、自分でできるのに大人にたよりきついていませんかに対し、いるが、男1828名(35.5%)、女1469名(30.4%)である。これを表7にみる如く東京都3才児健診研究会の結果と比較してみると、同様の項目が他に比して高いことがわかる

表7 地域別・項目別のアンケート記載状況
(東京都3才児研究会成績との比較)

地区名 アンケート 例数	秋 田 県		中 野 区		目 黒		大 島	
	例 数	10035 に対 する 比	例数	92 に対 する 比	例数	98 に対 する 比	例数	22 に対 する 比
1.コトバのおくれ	985	9.8	8	8.4	4	4.1	4	6.3
2.発 音	1507	15.0	10	10.8	11	11.2	5	7.8
3.運 動	490	4.9	2	2.2	0		0	
4.歩き方	272	2.7	1	1.1	8	8.2	2	3.1
5.手先の動き	328	3.3	2	2.2	1	1.0	0	
6.耳	83	0.8	3	3.3	0		1	1.6
7.目	488	4.9	7	7.6	7	7.1	0	
8.食 事	2085	20.8	17	18.5	20	20.4	16	25.0
9.排泄便	631	6.3	10	10.8	12	11.2	6	9.4
10.夜の睡眠	468	4.7	5	5.4	5	5.1	1	1.6
11.言うことをきかない	2093	20.9	7	7.6	16	16.3	8	12.5
12.不安やおそれ	1003	10.0	9	9.8	12	11.2	0	
13.ひどいくせ	1075	10.7	9	9.8	4	4.1	2	3.1
14.大人にたよる	3297	32.9	21	22.8	14	14.3	14	21.9
15.友達とのあそび	791	7.9	5	5.4	11	11.2	8	12.5
16.かぜをひきやすい	1708	17.0	16	17.4	12	12.2	8	12.5
17.ひきつけ	969	9.7	7	7.6	9	9.2	2	3.1

小児保健研究 VOL.26, №3, 1968

さらに3才前半(満3才～3才6カ月未満)と後半(3才6カ月～満4才未満)にわけると図1の如くである。アンケート8の食事、アンケート11の極端に言うことをきかない、アンケート14の大人にたよる等の項目が、男女とも、前半、後半ともに高い比率を示している。

2) アンケートと精神発達調査

アンケートにおける母親の観察の信頼性を検討する意味で、健診会場で第三者の行なつた精神発達調査結果との関連をみると、表8、図2

の如くである。すなわち、男3155名中、アンケートの回答が問題ありとなつている者2341名(74.2%)、問題なしとみている者814名(25.8%)であるが、この中の問題ありの群で精神発達調査においてPart1.2.3の間、(Part1 社会成熟度、Part2 情緒、性格、態度、Part3 精神発達)のいつれかに1つ以上未成熟のあるものは、2341名中866名(37.0%)、問題なしの群では814名中203名(24.9%)である。又、女

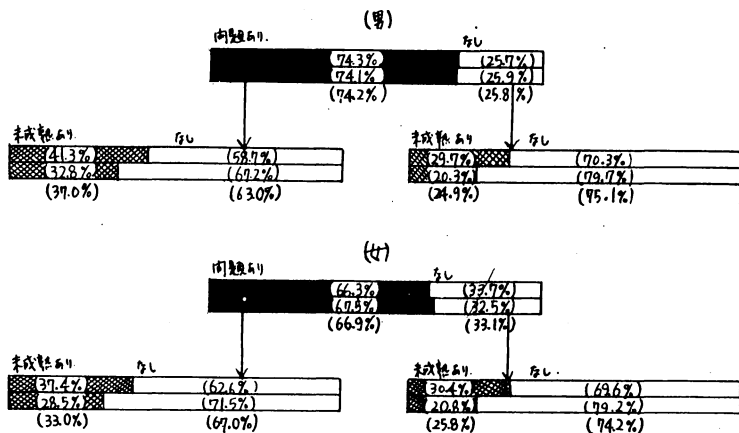
表8 母親の観察と精神発達調査

調査人員 昭42年度 3579名
43年度 2531名
(計 6110名)

			母親が問題ありとみているもの						問題なしとみているもの					
			N	未成熟 なし	未成熟 あり	総合判定		N	未成熟 なし	未成熟 あり	総合判定			
						保育に 注意	要精検				保育に 注意	要精検		
男	前半	1561	1160	681 (58.7)	479 (41.3)	265 (22.8)	12 (1.0)	401 (25.7)	282 (70.3)	119 (29.7)	660 (15.0)	0		
	後半	1594	1181	794 (67.2)	387 (32.8)	235 (19.9)	13 (1.1)	413 (25.9)	329 (79.7)	84 (20.3)	42 (10.2)	1 (0.2)		
	計	3155	2341	1475 (63.0)	866 (37.0)	500 (21.4)	25 (1.1)	814 (25.8)	611 (75.1)	203 (24.9)	102 (12.5)	1 (0.1)		
女	前半	1502	996	623 (62.6)	373 (37.4)	187 (18.8)	6 (0.6)	506 (33.7)	352 (69.6)	154 (30.4)	75 (14.8)	1 (0.2)		
	後半	1453	981	701 (71.5)	280 (28.5)	181 (18.5)	7 (0.7)	472 (32.6)	374 (79.2)	98 (20.8)	50 (10.6)	1 (0.2)		
	計	2955	1977	1324 (67.0)	653 (33.0)	368 (18.6)	13 (0.7)	978 (33.1)	725 (74.2)	252 (25.8)	125 (12.8)	2 (0.2)		
計	前半	3063	2156	1304 (60.5)	852 (39.5)	452 (21.0)	18 (0.8)	907 (29.6)	634 (69.9)	273 (30.1)	135 (14.9)	1 (0.1)		
	後半	3047	2162	1495 (69.1)	667 (30.9)	416 (19.2)	20 (0.9)	885 (29.0)	703 (79.4)	182 (20.6)	92 (10.4)	2 (0.2)		
	計	6110	4318	2799 (64.8)	1519 (35.2)	868 (20.1)	38 (0.9)	1792 (29.3)	1337 (74.6)	455 (25.4)	227 (12.7)	3 (0.2)		

図2 男女別・前半・後半別 母親の観察と精神発達調査

男 3155名
女 2955名
計 6110名



2955名中、アンケートの回答が問題ありの者1977名(56.9%)、問題なしの者978名(33.1%)で、男児と同様Part 1. 2. 3のいずれか一つ以上に未成熟のある者は、問題ありの群1977名中、653名(33.0%)、問題なしの群978名中、252名(25.8%)である。

母親の観察において、問題ありの群に当然問題なしの群より未成熟者が多いと思われるが、男児の場合は統計的に有意の差があるが、女児では差がない。

3. 考 察

以上、41. 42. 43年度アンケート調査10035名、さらに42. 43年度にアンケートと平行して行なつた精神発達調査者6110名の調査結果をのべた。

すなわち、アンケートの項目別では、食事についてや、言うことをきかない、大人にたよる等の生活習慣、しつけに関する項目に母親の心配度が高くなっているが、これらの項目は、3才児の特徴ともいうことができるし、又、3才児としては、当り前の状態として現われることもあり、多くの母親が問題ありとしているのは3才児の特性をよく理解していないことによるのではないと思われる。3才児がわからずやの面ともものわりのよい時とを一進一退をくりかえす、つまり、平井信義氏のいわれる、らせん状に成長していくのだということを、よく母親にわからせ、3才児を育てていくよう指導する必要がある。

なお、女児に母親が問題なしとみている者の比率が高いこと、そしてその群に、未成熟が男児より多いことは女児がおとなしく、扱いやすい反面、母親が女児に甘いということも考えられる。

しかし、東京都3才児健診の結果と比較してみると、本県の母親のみが、その傾向でないことがわかる。

さらにアンケートの信頼性を検討する意味で精神発達調査との関連をみたが、母親が問題ありとみている群に未成熟者が多いが、問題なし

の群にも男児24.9%、女児25.8%の未成熟があるということは、問題あり群より少ないとはいえ、アンケートの記入のみを信用しては、ふるい落される可能性もあることがわかる。従つて時間と手数がかかるが、精神発達調査の必要性を強く感ずる。

4. 結 び

東京都の3才児健診研究会において作られた第一次スクリーニングのアンケート方式を41. 42. 43年度において、秋田県の3才児健診の際にも行なつたが、その結果

- ① 母親が全然問題ないと記入している者が男4635名中、27.9%、女4245名中34.0%である。
- ② 項目別では男女とも食事、言うことをきかない、大人にたよる等の項目に問題ありとしている母親が多く、母親に3才児の特性を、もつとよく理解させる必要を強く感ずる。
- ③ アンケートの信頼性を検討する意味で、精神発達調査との関連をみたが、母親の観察で問題なし群に、男児では有意の差で未成熟は少ないが女児では差がない。

しかしながら、母親が問題なしとみても男24.9%、女25.8%の未成熟者がみられるので、やはり精神発達調査も平行して行なうことが必要であると思われる。

終るにあたり、総合判定に御協力、御指導たまわりました秋田大学心理学教授 中村四郎先生、ならびに秋田県中央児童相談所心理判定員 安倍正男先生に衷心より感謝申し上げます。

文 献

- 1) 田中憲一：田中ビネー式知能検査法，昭28
- 2) 鈴木治太郎：実験的個別的知能測定法，昭37
- 3) 牛島義友他：3才児の精神発達にかかわるスクリーニングテスト及び精密検診の標準化に関する研究，日本総合愛育研究所記要第1集，159～175，昭41

